

なめがた市民 100 人委員会「第 1 班」議事メモ

議論した基本目標	子どもを産みたい希望をかなえすみたいまちをつくる 子育てしやすい地域にする
コーディネーター	石井聡（神奈川県逗子市）
審議員	石渡秀朗（構想日本）
説明担当者（自治体）	健康増進課、生涯学習課スポーツ推進室
日時	2021 年 6 月 27 日（日）16 時 20 分から 17 時 05 分
その他	参加者数 <u>会場</u> 5 名 <u>オンライン</u> 1 名 <u>欠席者数</u> 17 名

総括

テーマ 子育てしやすい地域にする

- 学校の統合により、学校あたりの生徒数が増えたことで、近隣他自治体と、学校教育の環境が並んだ。
- スクールバスは安心だが、不便さを感じることも多く、親がかりになっている家庭も多い。
- ・部活動を行っている生徒やイレギュラーなイベントがあった時には使えない
- ・利用料が高額
- ・公共交通機関の連携が悪く、学生の使う時間帯に公共交通機関が使えない。
- 三世帯同居家庭は、全国平均から見ても高い割合であり、日常的にも緊急時にも、祖父母が子育てをサポートできる家庭が多い。また、保育も充実しているので、親が安心して働ける環境は高水準である。
- 一方で、子育てに対する親世代と祖父母世代の意識のギャップがあるという声もある。

協議の流れ（摘録）

テーマ 子育てしやすい地域にする

コ) 「この地域の子育ての特徴は何か？」ということについて発言いただきたい。

例えば三世帯が同一敷地内に住んでいたりすれば、学童のようなものへのニーズは少ないと思う。

学校統廃合などがこれまで 10 年ほどの間にあったが、それを踏まえて“これから”を考えようとしたとき、「この地域での子育て」について、どう感じるか。

委) 自分には、この 10 年で高校～大学に育った子どもが 2 人いる。学校の統合の良い効果として、同学年に別クラスができたことで、他市の環境と並んだのではないかと考えている。親が車で補助する必要があるなど、一方で、進学に不便な環境であると考えている。スクールバスは安心。しかし、始業前の部活の朝練や自発的な何らかのイレギュラー対応は、市バス・スクールバスでの対応はできないので、親が対応している状況。

委) 自分にも中学校・専門学校の子どもがいて、同じ状況だ。近所では、部活動をやっている子が土浦に通っている。その子の場合もやはり親が車で対応している。

委) : 委員、コ) : コーディネーター、審) : 審議員、市) : 説明担当者

また、高校のスクールバスは1回500円のため高額だ。

委) 行方市は、自家用車を使えば、水戸・筑波・浦安などへのアクセスはしやすい。しかし、民間の交通事業者の参入が少ない現状であり、公共交通機関の連携が悪く、学生の使う時間帯に使用できない。学生が利用したい時間帯で運航を開始すれば、2年ほど何とか続けられれば、利用客が得られるのではないかと考えている。

ある程度長期的な期間で、こういったビジョンがあるのかを市が示せば、もっと公共交通を利用する方が増えてくれると思う。

コ) 行方市の子育ての傾向として「高校までは実家住まい」というのが一般的だということが読み取れる。ただ、公共交通機関の使い勝手が悪いことが、それを阻害する要因になっていると感じる。

コ) 小さい子供のいる家庭は、近くに祖父母が住んでいる家庭が多いなどのデータはあるか？

市) アンケート結果がある。

- ・三世代同居 祖父34% 祖母42%
- ・同一敷地 45%
- ・祖父母が日常的に子育てに関わっている 46%
- ・緊急時に子どもを診てもらえる親族がいる 56%

コ) この数値は、他自治体・地域と比べると非常に高いものだと思う。そのため、他自治体でも行っている平均的な取組みではなく、行方市の特徴や おかれている状況を踏まえた取組みが必要になる。(例：地域住民の目が行き届いている地域としての独自の取組み。)

委) 「同居している祖父母がいるものの、親としてはして欲しくない方針のことを勝手にされていることがあるので、別のところに預けたい」という声を地域できいたことがある。

親と祖父母の子育てに対する認識のギャップがあるので、もっと祖父母向けの取組みを強化しても良いのではないかなと考えている。

市) 祖父母向けの子育て教室も行っているが、浸透しきれていないということだと思う。

委) ひとり親はどれほどあるのか。

市) 同居祖父母がいないひとり親家庭は、全体の子育て世帯から見て6%ほど。

委) その方々は、行方市で不自由なく暮らしているのだろうか。

市) 家庭相談は行っているので、困りごとがあったらフォローする体制はできている。

コ) 貧困ひとり親世帯に対しての経済や保育の行政支援は行き届いていると考えられる。

この質問は「多世代の同居が多い地域で、ひとり親は生きやすいのだろうか」という意味であったと考える。

委) 行方市の地域の特性を考えると、高校を卒業してから県外へ進学・就職した後に、帰

ってこない子が多く、流出人口が多い地域だと思う。

コ) この件については、行政のデータをもとにもっと特徴を分析できると思う。例えば他県では、男女のU・Iターン率の差が大きく開いている地域がある。(兵庫県豊岡市)

委) 親が安心して働ける地域が、良い子育てができる環境なのではないかと思う。

コ) 親が働いているときに祖父母が見守ったり、待機児童が無い体制づくりができていることは「親が安心して働ける」ということに役立っていると思う。

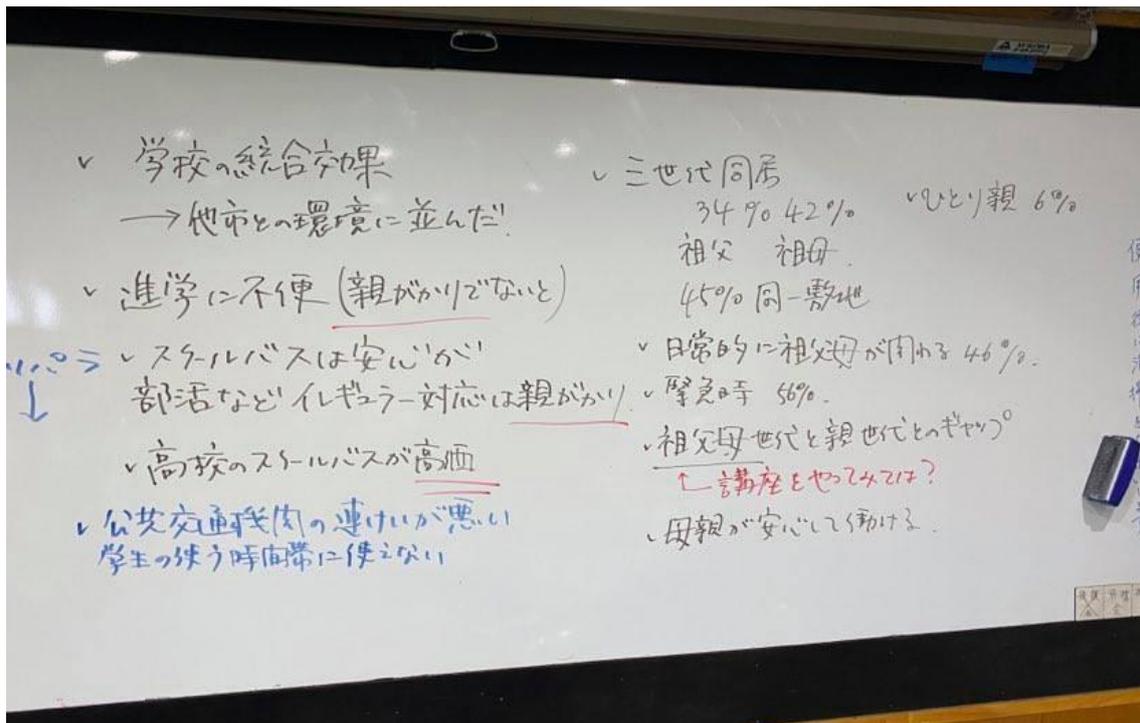
病児・病後児の保育はファミリーサポートでも引き受けリスクの多さから、受け入れが難しいという問題がある。自治体・地域で大きな違いがあるが、行方市ではどうか。

市) 病後児保育は市内2園で受け入れている。これは県内でも稀である。

ただ、病児保育はなかなか受け入れのための看護師・保育士人数の確保が難しく、市内では受け入れる先はない。

委) 病後児保育は非常に良い取り組みであると思う。そうした取り組みを行っていることを、行政からもどんどんPRして欲しい。

ホワイトボードの写真 (コーディネーターが議論をまとめた資料含む)



委) : 委員、コ) : コーディネーター、審) : 審議員、市) : 説明担当者